



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

ハンセン病問題が 問いかけるもの

訓 覇 浩



〔略歴〕
解放運動推進本部に25年在籍。部落差別問題・アイヌ問題・ハンセン病問題等多くの課題と出会う。現在、三重教区金藏寺住職。真宗大谷派宗議会議員。

つらくて、いたい。「いいことをしておいて、何が痛い」と怒鳴られた。たまらなかつた。台の上上がったときに器具の音を聞きながら気を失った。子どもを引きずり出された。顔をたたかれて目が覚める。鼻も口もガーンと押さえられ、

は二度と子どもができないよう、断種手術を強制されました。

ばたばたしている赤ちゃん。まぶたが動いていた。へその緒が波打っていた。髪の毛が真っ黒だった。子どもが殺される。看護婦は子どもをもって走って行ってしまった。その時の医師はこういった。

「園の規則まで破って、子どもをつくって恥ずかしくないのか」。水さえ飲ませてもらえなかった。その悔しさは忘れられませんが、赤ん坊の死後、夫

は二度と子どもができないよう、断種手術を強制されました。ハンセン病回復者で、鹿児島県にあるハンセン病療養所星塚敬愛園で現在も暮らす玉城しげさんが、自らの経験を語られた言葉です。

私たちの国は、一九〇七年から一九九六年まで、九十年にわたって、ハンセン病を患った人を一生療養所に閉じ込めるという「ハンセン病絶対隔離政策」を行ってきました。その政策が与えた被害は、「ひとりひとりの全人格、全人生にわたる」被害と表現されますが、その中でも、断種・墮胎は、最も酷い仕打ちであると、多くの入所者が語られます。

また、園内では本名が奪われ「園名」を名のらされてきました。これは、「その人をして社会の中で生活することが許されないもの」との自己認識を強いる「ためになされた」と確かめられています。本名が奪われるということは、その名によって紡いできたあらゆる人間関係が奪われるということであり、自らのいのちのルーツであるふるさと、家族を奪われるだけでなく、「自分自身」もが奪われるということなのです。

隔離政策は、ハンセン病を患った人たちの人間としての尊厳、独尊性そのものに向けられた刃であったのです。隔離政策が国民に受け容れられたのは、ひとつ

はハンセン病患者を国の辱とする「国辱論」ですが、それだけでは、隔離政策の「正当性」を、国民にもハンセン病患者にも納得させることは困難でした。そこで持ち込まれるのが、隔離は「救済」という概念です。その概念の療養所内外に対する周知を、「慰安教化活動」などで担ったのが真宗大谷派をはじめとする宗教者たちでした。とりわけ、自らの存在を、屈辱的政策により卑下するしかない状態に貶められている入所者には、自らに真剣に寄り添いながら説かれる「隔離を受容することが救済」という「教え」は、深く浸透していきました。

しかし、それは、宗教者の活動が、隔離の持つ非道さに覆いをかけてしまふはたらきを持ったことを意味します。人は人権侵害があるときには、必ずそれと闘います。しかし、人権が侵害されていることそのものに覆いがかけてしまふなら、闘いということもかすめとられてしまいます。それこそが、究極の人権侵害といえます。

飛驒の真宗

伝承散歩⑱ 聖殿遺跡碑

鎌倉幕府が開かれたころ、下総国(千葉県)守護に任ぜられ、幕府の家臣の重鎮となつた千葉常胤という武士がいました。その孫である千葉小次郎成正是、激しい動乱に世の無常を感じ、武士としての立身出世を諦め、道を求めて諸国巡歴の旅に出ました。白川郷海塩村(莊川町海上)において成正是病に倒れてしまい、しばらくそこに留まりましたが、結婚もし、そのままそこに定住することにしました。

白川郷の地は貧しく、成正是焼畑の耕作や養蚕の技術を伝え、村人の生活は開かれていきました。また、成正是村の人々から厚い信頼を得ていました。

その頃、奥美濃の白鳥(郡上市)に嘉念坊善俊上人という僧がいますと聞き、早速白鳥へ赴き、念仏の教えを聞きました。その教えに深い感銘を受けた成正是善俊上人の弟子となり、浄正と名のりました。

浄正は「この教えを飛驒の人にも聞かせたい」と願ひ、上人に白川郷へお越しくださいと願ひ、上人に白川郷へお越しくださいと願ひ、上人に白川郷へお越しくださいと願ひ、



「聖殿遺跡」と刻まれた碑

たち一人ひとりの日常にさまざまな形で現れ、自らを「善意」の高みに押し上げ、同情の対象を見下ろしていきます。同情のころは、差別するころと同質のものと言わねばなりません。したがって、そのまなざしが自らに向けられることはありません。自らが問われることのないところに、人と人が水平に出会う地平、すなわち互いを独尊者として称えあう世界(同朋社会)は開かれませんか。

ハンセン病問題とは何か

ハンセン病とは 「らい菌」に感染することで起こる病気で、かつては「らい病」と呼ばれていました。発症すると手足などの末梢神経が麻痺したり、皮膚にさまざまな変化が起こったりします。早期に適切な治療を行わないと、手足などの末梢神経に障害が起き、汗が出なくなったり、痛い、熱い、冷たいといった感覚がなくなったりすることがあります。また、体の一部が変形するといった後遺症が残ることもあります。現在では有効な薬が開発され、完全に治る病気となっています。

隔離の歴史 1907年、ハンセン病を患った人を療養所へ隔離する「癩予防ニ関スル件」が制定されました。1931年には「癩予防法」と名前を変え、すべての患者を強制的に収容し、療養所から一生出られなくする「ハンセン病絶滅政策」が行われました。各地に療養所が建設され、各県では「無らい県運動」という名のもとに、患者を見つけ出し療養所に送り込みました。そして市民もまた運動に参加し、隔離を推進していきました。療養所では偽名を名乗ることが強いられ、また、「断種・墮胎」が強制されました。そして戦後の1953年には、さらに隔離の強制力の強い「らい予防法」として生まれ変わりました。

ハンセン病問題の現状と課題 1996年、「らい予防法」が廃止されました。その時から20年の月日が流れ「ハンセン病国賠訴訟」の勝訴、「ハンセン病問題基本法」の制定など公の解放はすすみました。しかし入所者の減少による医師や看護師の不足や統廃合の不安、入所者自治体の高齢による弱体化など課題を残しています。また、人々の心に植え付けられた偏見や差別により、現在も多くの人々が故郷に帰れず、肉親との再会を果たせていません。そして療養所を退所した人や家族、遺族にも、いまだに大きな不安を与えています。ハンセン病問題を過去のこととせず、一人ひとりがこの問題に向き合うことが求められています。

い」と願ひ、上人に白川郷へお越しくださいと願ひ、上人に白川郷へお越しくださいと願ひ、上人に白川郷へお越しくださいと願ひ、

☎テレホン法話(0577)34(23)13 ☎10月21日~31日:畑亮徳氏「願徳寺」 ☎11月1日~10日:小原正寛氏「専念寺」 ☎11月11日~20日:五辻元駐在教導「教務所」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

ひだご坊 報恩講

親鸞聖人の教えに
この私が出会うための法要

定例法座・法話(午後1時から) ○10月21日(水)：宮川徳義氏「聖圓寺」 ○10月27日(火)：出雲路善公輪番 ○10月28日(水)：谷口昭久氏「誓願寺」 ○11月11日(水)：出雲路善公輪番 ○11月13日(金)：前田雅敬氏「長林寺」

10月 31日 (土)	午後2時 午後7時	ご坊報恩講のつどい —戦後70年を迎えて— 「はだしのゲン」 講談師 神田香織氏
11月 1日 (日)	午後1時 午後1時半	しょたいや 初逮夜 音楽法要 講師 相馬 豊氏
2日 (月)	午前10時	にっ ちゅう 全飛門徒 物故者追弔会
	午後1時 午後1時半	おおたいや 大逮夜 同朋唱和
3日 (火)	午後6時	ごでんしょう 御伝鈔拝読 第34回 別院真宗公開講座 講師 相馬 豊氏
	午前10時	き きょうしき 帰敬式(9時) ほうとくえ 報徳会 さいこんえい たいきょう 再建永代経
	午後1時半	まんにつちゅう 満中 終了後 御遠忌・御修復決意集会

ご坊報恩講のつどい—戦後70年を迎えて—
講談「はだしのゲン」
10月31日(土)
第一部
会場 旧湯屋小学校体育館
下呂市小坂町湯屋 46 番地
午後2時～
第二部
会場 高山別院本堂
午後7時～
入場料 【両会場とも】 大人1,000円
(高校生以下無料)

中沢啓治氏原作の「はだしのゲン」。
広島に投下された原爆被害をもとに
書かれた実体験の物語。
講談師 神田香織氏



1980年、神田山陽門下生となり、二ツ目昇進以降、ジャズ講談や一人芝居の要素を取り入れた独自の講談を次々と発表、講談の新境地を切り開いている。1986年、「講談はだしのゲン」公演で日本雑学大賞受賞。ノーベル賞作家アレクシエービッチ氏著『チェルノブイリの祈り』を公演。

参拝送迎バス
11月2日・3日には別院報恩講参拝のためバスを運行します。乗車場所・時間等のお問い合わせ、お申し込みはお手次のお寺へお願いします。
【2日】白川村、荘川町、久々野町、一之宮町、丹生川町、下呂市、国府町、飛騨市
【3日】朝日町、高根町、清見町、山田町、下林町

お 齋 庫裡ホール
期 日 11月2日(月)・3日(火) 昼
お斎料 1,500円

ご坊名物大根汁(無料)
期 日 11月1日(日)～3日(火)

フリーマーケット
期 日 11月1日(日)～3日(火)

抹茶接待(無料) 庫裡御殿
日 時 11月1日(日)
午前11時～午後3時
主 催 表千家 二木社中

玉翠会書道展 庫裡ホール
期 日
10月24日(土) 午前9時～午後5時
10月25日(日) 午前9時～午後4時

お 浚 え
報恩講翌日のお朝事です。ぜひお参りください。
日 時 11月4日(水) 午前7時～

子ども作品展
期間 10月24日(土)～11月7日(土)


子ども報恩講 お気軽に参加ください
日 時 11月7日(土)
午前10時～午後3時頃
※昼食はこちらで用意いたします。

内 容 おつとめ、作品展表彰式、
かみしばい、おはなし、
遊びの広場など

持ち物 お念珠、お勤めの本

参加費 無料

会場 高山別院 本堂



高山教区・高山別院
宗祖親鸞聖人御遠忌法要・別院本堂御修復
決意集会ご案内

現在、高山教区・高山別院では御遠忌・御修復に向けての検討が進められていますがその概要が固まりつつあり、別院報恩講を場としてその決意を共にいたしたく、下記のとおり決意集会を行います。
満日中の御参詣とともに、是非ともご参加くださいますようお願いいたします。

日 時 11月3日(火) 満日中法話終了後

大谷婦人会
高山支部報恩講
日 時 11月11日(水)
午後1時から

会場 高山別院 本堂

講師 出雲路善公輪番

※午後12時よりお斎があります。(1,000円)

ご回壇案内
11月
13日(金)了泉寺「鉄砲町」
15日(日)浄願寺「丹生川町」

「原爆の図」展示 本堂
この夏に開催された戦後70年企画「非戦平和展」での展示に引き続き、以下の期間、「原爆の図」(丸木位里・俊作)を本堂にて展示します。
◆第一部「幽霊」(原寸大)
展示期間 10月31日(土)～11月8日(日)
※見学無料